

平成30年度 学校自己評価表 (最終評価)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。</p>	<p>今年度の重点目標 1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4 ものづくり教育の推進</p>
---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	評価の具体項目	現状	年度当初		評価結果		
			目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 心身ともにすこやかな生徒の育成		<p>生徒一人ひとりを活かす人間教育を促進し、いじめや差別のない望ましい人間関係を構築していく。 低学年からの意識づけを大切に、正しい倫理観・道徳観を身に付けさせ、基本的な生活習慣を確立させる。特に「あいさつ」「服装」「時間を守る」を大切にすること。部活動の教育力を活かして、心身を鍛え、心身ともに基本的ルールやマナーを体得させる。</p>	<p>全校の90%が無遅刻であり遅刻の数はたいへん少ないが、防げる遅刻の割合が多い。 服装、マナー、エチケットは向上しているが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。あいさつも声が小さく形だけにとどまっている生徒が増えてきた。 部活動には90%以上の生徒が加入し熱心に活動している。</p>	<p>○全校の遅刻回数が年間8%(35回)以下となる。 ○朝読書の時間は全校が静かな環境で落ち着いた読書を行う。</p>	<p>○登校した生徒から読書を開始し、8:30には静かな状態となり、安易に遅刻できない雰囲気を作り出す。 ○遅刻者には、時間を守ることやSHRIに出席することの大切さを本人・保護者に伝える等、安易な遅刻・欠席が減るよう、その都度指導する。全校で決めた数値目標を達成しようと努力することが学校の一員としての意識の高さを伝えていく。 ○朝読書の時間は、全校生徒と全職員が一斉に静かに読書することを徹底する。</p>	<p>○遅刻は年間35回以下(8%)を目標にしていたが、3月20日現在87回(昨年70回)となり、目標を達成できなかったばかりか昨年度に比べ大幅に増加した。また、防げる遅刻が40回(昨年31回)で、こちらも昨年度を大幅に越えた。学年で見ると、1年生43回、2年生23回、3年生21回で、1年生が多かったこと、例年に比べ来年度と減るべき3年生の遅刻回数が減らなかったことが目立った。しかし、機械科2年生は230日間無遅刻であり、現在も記録を更新中である。  ○ほとんどの生徒・教職員が8:30には読書を行い、静かな雰囲気を作っている。</p>	<p>○防げる遅刻40件の内訳は、寝坊10件、忘れ物や家庭でのトラブル等の自己都合が17件、体調不良10件、交通事情によるもの3件だった。引き続き、8時30分には教室内で学校生活を送るための準備ができていないことを意味を伝え、生活習慣を整える、体調管理に気をつける、予測し余裕を持って行動する等の重要性を根強く呼びかけていく。  ○服装指導において再検査なしを目指すとともに、日頃から全職員が共通理解のもとに指導を継続する。全職員が小さな違反を見逃さない姿勢を大切にすること。 ○あいさつについては教職員による指導も大切だが、生徒会活動とおしての大きなムーブメントも必要である。 ○部活動加入状況を継続して把握し、加入率と満足度を高めていく。 ○本校の部活動の方針を定め、新たな部活のあり方を検討していく。</p>
			<p>○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、+αのあいさつが実践できる。 ○いじめや差別のない望ましい人間関係を構築できる。 ○自分自身が大切な存在であり、また他の人も大切な存在であることを再確認する。 ○生徒の部活動加入率95%以上。</p>	<p>○毎月の服装指導で身だしなみの点検を行い、いつでも面接試験が受けられる姿の確認をする。 ○校外での服装・あいさつを含むマナーやルールを守るよう日常的に指導する。また、日常生活の中で、正しい言葉遣いを指導していく。 ○人権教育LHRにおいて人権教育推進委員会と教職員が綿密に打合せを行い、生徒が主体的に取り組めるように工夫する。 ○性と生を考える学習を促進する。 ○生徒の部活動状況について、顧問、生徒会、担任、保護者と連携を密にし、情報を共有して、退部者・未加入者を抑え、加入を促進する。</p>	<p>○服装指導は月1回、のべ10回実施した。再検査の対象者数はのべ244名であり、学年別の内訳は1年生139名、2年44名、3年61名で、1年生の違反者が多いことと、例年だと学年が上がるとつれ違反者は減るものだが、本年度は3年生にも指導が必要な生徒が多かったことが目立った。 ○生徒会で「あいさつ週間」を実施し(6/8～6/14)、部活動単位(17部、のべ429人)で活動を行った。 ○人権教育LHRでは生徒の主体性を引き出すための課題設定や展開の工夫を行った。公開LHRでは外部からの参加者から高い評価をいただいた。 ○学校生活に関する調査の結果を踏まえて、生徒への面談等をすばやく実施することができた。その後も、経過観察を行っている。 ○部活動加入率は全体93%、1年生96%、2年生93%、3年生90%。 中国大会への参加人数:のべ270名(昨年256)名 全国大会への参加人数:のべ100名(昨年91)名</p>	<p>○クラスでの点検は、保健委員を中心に呼びかけや、チェックを行う。 ○保健委員を中心に、放課後の見回り活動を行う。</p>	
<p>○環境に対する意識向上を目指す。</p>	<p>○学校生活や実習をとおして、5Sの徹底に努める。 ○環境HRを実施すること、保健委員の活動を中心に、環境に対する意識を高めていく。 ○毎日の掃除を時間いっぱい使い、奉仕共助の心を涵養する。</p>	<p>○4月と6月に保健委員を中心に環境LHRを行い基本的な生活習慣としての清掃、また、環境保護という視点から、節電・ごみの少量化などについて学んだ。また、保健委員会を毎月開催し、クラスでの点検を行い環境に対する意識を高めた。 ○毎日の清掃はおおむね良好である。本校の伝統として環境美化に対する意識は高い。 学校生活に関するアンケート「自分は積極的に清掃活動を行っている」 AB評価90%(H29:96%)</p>	<p>○個人面接を積極的に行いながら早期に進路意識が高められるよう指導を徹底する。</p>				
2 夢や希望をかなえられる学校づくり	<p>地域や企業と連携し、実践的な『キャリア教育』を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路実現を目指す。 資格や検定の取得を促すことで基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢を育てる。 早期に進路意識を持ち就職・進学に対応できる学力を身に付けられるような支援体制を整備する。</p>	<p>具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力に不十分さがある。 就職希望者支援体制については、ほぼ完成されているが、進学者指導に関しては、個別指導に頼る部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。 各教科で公開授業を計画的に行っているが、教科の枠を越えた組織的な授業研究には至っていない。</p>		<p>○低学年からの進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実による勤労観・職業観を育成する。 ○年内就職内定率100%。</p>	<p>○進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施する。 ○定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部で県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を積極的に伝える。 ○インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実させる。 ○職場見学やオープンキャンパスへの参加を促し、自ら考え行動できるよう指導する。 ○企業見学・社会人講師・技能士の派遣制度等を活用して、職業観の育成に努める。</p>	<p>○進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を行い進路意識を高めることに努めている。 ○定着指導・求人依頼・企業開拓のため、県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を生徒に伝えた。 ○「インターンシップ」「ビジネス実習」「長期インターンシップ」の事前・事後指導を徹底できた。勤労観や就業意識が身に付いてきている。 ○積極的に応募前見学会やオープンキャンパスに参加させ試験に備えた。 ○各科と連携して、企業見学や社会人講師を活用して、職業観の育成に努めている。 ○年内就職内定率、本年度99%(H29:100%)</p>	<p>○学習指導委員会等で具体的に基礎学力を身に付けさせる取組みを引き続き検討する。 ○家庭学習の続きを継続して伝えるとともに、各員会で検討する。</p>
			<p>○基礎学力の定着と表現力を向上させる。 ○生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上を目指す。</p>	<p>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ○3年生の進路が一段落する12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。 ○個人面談等を活用し、学習時間の確保と学力向上に努める。 ○基礎力診断テストでの調査にある家庭学習時間及び学校アンケートを利用して、家庭での学習と成績との関連を振り返らせ、家庭学習の大切さを伝える。</p>	<p>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討した。 ○学習指導委員会を開き、生徒の志望動向情報を共有し、指導体制の検討・確認を行なった。 ○基礎力診断テスト実施前には事前学習課題を使った指導を行い、実施後は各教科・進路部で今後の指導について方策を検討した。基礎力診断テストでの調査にある家庭学習時間を利用して、家庭での学習と成績との関連を振り返らせ、家庭学習の大切さを伝えた。 ○12月に実施した学校評価アンケートで家庭学習が30分以内の生徒が80%であった。 ○1年生では基礎学力の養成と学習に向かう雰囲気づくりを目的に朝学習を実施した。</p>	<p>○合格後も個別指導を継続することにより、進学後に必要な科目の学びに対応できる力をつけたい予定である。 ○ICT活用、アクティブラーニング等の視点を定めながら授業改善、指導力向上に努め、公開授業を積極的に行う。</p>	
<p>○資格取得を促進する。</p>	<p>○資格取得・上級資格取得のための計画的に充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ○多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 ○専門人材育成重点校の数値目標に挙げている資格取得の合格者数を上回るよう、朝補習や長期休業中などに計画的に補習を行う。 ○図書館の検定資格取得コーナー、進路や教科指導に関する本を充実させる。</p>	<p>○資格試験に向けて各科とも計画的に補習などを実施し、例年並みの結果が出ている科と苦戦している科が見られた。 【主な資格検定合格人数】技能検定機械加工普通旋盤作業3級7名 第二種電気工事士35名 第一種電気工事士5名 全商簿記実務検定1級25名 家庭科技術検定1級3種目合格5名 ○図書館では、「夢を実現コーナー」を設置し、進路選択や検定資格取得のための資料を充実させた。また、ものづくり企業展示や教職員による図書館ミニ講座、生徒作品展示、校内ピリオバルなど様々なイベント展示をおとし図書館に通う生徒が増えている。</p>	<p>○資格試験の合格に向けて、自発的に取り組む生徒の育成に努める。</p>				
3 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり	<p>広報活動に力を入れ、学校理解・PRに努めるとともに、地域・産業界との交流を進め相互理解を深める。 国際理解教育に努め、体験的な学習を取り入れ、実践的な態度や資質、能力を育成する。</p>	<p>中学校へ向うの学校説明会や本校での学校説明会により中学校教員の本校への理解は進んできた。 課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。</p>		<p>○推薦・一般入学者選抜における各科の募集定員の充足。</p>	<p>○中学校体験入学の内容を検討する。 ○生徒の活動の様子(課題研究・社会人講師など)や学科の取組、部活動の様子等、HPも利用しながら積極的にPRする。</p>	<p>○中学生体験入学はのべ415人(昨年487人)の参加があった。アンケートでは93%の生徒が進路選択の参考になったと回答していた。 ○昨年度実施ができなかった中学生への電子工作教室を予定通り実施することができた。今後参加者が増えるようさらにPRしたい。 ○学校HPを活用して学校行事や部活動報告等を行い、積極的に学校PRを図った。 ○入学者選抜において募集定員の充足が図れなかった。</p>	<p>○あらゆる機会を利用して学校理解・学校PRに努める。 ○学校HPが更に充実するように、更新に努める。</p>
			<p>○学校間交流等、国際理解教育を推進する。</p>	<p>○学校間交流等をおとして国際感覚豊かな職業人の育成に努める。</p>	<p>○学校間交流で生徒7名が韓国春川市の聖修女子高等学校を訪問し、運動会・授業参加・生徒討論会、ホームステイ等を体験し、大変有意義な交流ができた。</p>	<p>○6月の本校での学校間交流に向けて計画を立案し、事前事後の指導を充実させる。</p>	
4 ものづくり教育の推進	<p>地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術を持ち、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。 学部の枠を越えて生徒理解を図り、「ものづくり」に協力して取り組む体制づくりに努める。</p>	<p>「ものづくりコンテスト」への取組や社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得しようとしている。また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。</p>	<p>○ものづくりコンテストを目指した取組を一層推進する。</p>	<p>○鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を開催し、地域産業界との連携を図る。 ○ものづくりコンテストや社会人講師・技能検定の受検などの取組を通じて技能向上を目指す。</p>	<p>○鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を年2回開催し、各事業についても連携して取り組むことができた。 ○ものづくりをおとした地域貢献の一つとして上北栄公民館との連携事業を行った。 ○職業能力開発協会の技能士派遣制度を活用し技能検定に向けた技能向上を図った。 ○ものづくりコンテストでは2年連続中国大会出場権を獲得した。</p>		<p>○鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を充実させ、より高いレベルの技術の習得を目指す。 ○教員が実際に企業を訪問したり、企業で研修することで指導力向上を図る。</p>
			<p>○学科間連携を促進させる。</p>	<p>○生徒の実態に合わせて、総合選択制が有効に機能するように選択群のあり方を検証していく。 ○課題研究などで学科間の連携を進める。</p>	<p>○課題研究「くらそうや」をおとして、学科間連携を図った。 電気科:「おもちゃの病院」電気科・生活デザイン科:作品提供 ○教科主任会において選択群の在り方について検討した。</p>	<p>○生活デザイン科以外で幼児教育を希望する生徒がでてきた場合に、課題研究で他科との連携ができるとよい。</p>	

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]